

2015年度 自己評価表
広島YMCA専門学校

1. 学校の教育目標

高等職業教育機関として人格と実力(専門知識・スキル)の優れた人財を育成する。また専門知識・スキルの育成にとどまらず、愛と奉仕の精神を基底とし、ハングリー精神に溢れ、国内・国外を生き抜ける逞しさ、人間力・社会人基礎力を備えた社会に貢献する人財を育成する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ① 「広島YMCA専門学校中期計画(2012～2014)」が終了し、一定の成果を見る事ができた。2015年度も引き続き学校改革ビジョン並びに学校経営計画をすべての教職員が共有し、実行する。
- ② 強み・弱みをおさえた上で、競合に対する攻めの姿勢を崩さず、YMCAしかできない特徴・特質を自信を持って打ち出す。
- ③ 文化教養課程「言語コミュニケーション科」を「日本語教育改革構想」に基づき抜本的に改革する。
- ④ 医療事務科、ホスピタリティ科、社会体育科を「職業実践専門課程」認可を活かし刷新する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野における職業教育の特色は何か)	④	3	2	1
学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが生徒保護者等に周知されているか	④	3	2	1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

① 課題

YMCAが christianity を基盤としていることは漠然ではあっても理解している生徒・保護者が少なくない。専門学校としての理念、育成人材像、特色などは保護者には入学式・学科別保護者懇談会等の学校行事の折に説明、生徒には入学式、始業式、終業式等の機会に説明をしているが、まだ十分とは言えない。説明責任を教職員すべてが果たすことで教育効果が高まるように研修の機会を増やしていく必要がある。

② 今後の改善方策

従来から進めてきた外部有識者を教育内容アドバイザーとして導入する試み、企業等において実施中のデュアルシステムのWIN-WIN化の試みなどを、「職業実践専門課程」教育課程編成委員会へと進化、昇華させる。また本校の職業教育の特徴となっている長期間の実務研修(医療事務科は1年次に2ヶ月間、ホスピタリティ科は同じく1年次に2ヶ月間)及び2年間のデュアル研修(ホスピタリティ科と社会体育科に設定)により社会の教育力を積極的に取り入れているが、さらに実践を通して得られた知見による内容充実を図る。

③ 特記事項

豊かな人間性を涵養するために、spirit(心)mind(頭)body(体)の調和のとれた教育を展開する。また人格形成における4つの価値、すなわち caring(思いやり)、honesty(誠実)、responsibility {責任}、respect(尊重)を重視する教育を実践している。

(2)学校運営

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

① 課題

校長を中心とする責任ある学校運営、意思決定は機能しているが、2010年度に2つの専門学校が統合して現在の学校がスタートした関係で解決すべきごくわずかな残滓がある。また設置後の経緯から言語コミュニケーション科に学事日程、授業評価システムなど学校運営上統一すべき課題がある。また業界や地域社会からの学校運営に関する評価に一層真摯に耳を傾けるシステムの整備が必要である。

② 今後の改善方策

言語コミュニケーション科については人事、募集体制、指導体制などすべてに本年度メスを入れた。2校統合の残滓に関してはあと少しで解消となっている。

③ 特記事項

学校の内と外に向けて開かれた風通しのよい学校運営のため業界や地域社会との連携を深める。

(3)教育活動

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
教育理念等に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関	④	3	2	1

としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。				
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか。	④	3	2	1
関連分野の企業関係施設等、業界団体等の連携により、カリキュラムの作成見直し等が行われているか	④	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
授業評価の実施評価体制はあるか	④	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
成績評価単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
関連分野における業界との連携において優れた教員（本務兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
関連分野における先端的な知識技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

① 課題

学校の生命とも言える教育課程の編成に関しては外部からアドバイザー・コーディネーターを招聘し、最新・最良のものになるように努めてきた。また生徒による授業評価を数値化し教育課程の妥当性・信頼性を確保するために役立ててきたが、社会の要請に応える教育課程改革としてはまだ不十分な面が残る憾みがある。

② 今後の改善方策

優れた実務家教員の確保は学校の生命線であり、日常的に情報を収集しているがこれまではその範囲が限られていた。今後は関連分野における業界、団体との連携を密にしてより広い範囲から確保に努める。また生徒の実務研修、デュアルに関しては企業、団体をお願いしてきたが、教員に関しても関連分野の業界・団体へ長期休業中などを利用した研修体制を急ぎ構築し試行する必要がある。

③ 特記事項

前期、後期の各学期の終わりに実施する「生徒による授業評価」によると2015年度前期・後期の全授業科目174科目のうち評点4.0以上が142科目、授業担当者60名のうち評点4.0以上が48名であった。3.0未満の科目は1.1%、3.0未満の授業担当者は0%であった。しかし4.0未満に基準を上げると18%となる。

いずれの数値も2014年度と比較すると10ポイント近く改善されており、好ましい傾向にあると言える。従来、3.0未満の講師に関しては次年度の任用に関して熟考の上、きわめて慎重に判断しているが、2015年度、2014年度ともに3.0未満講師は0名である。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
卒業生在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	③	2	1

① 課題

進路就職支援の2015ビジョンは「就職を希望する生徒は希望職種に100%就職させる。進学を希望する生徒(おもに留学生)は100%進学させる。」である。就職希望者の2015年度就職内定率(2015年3月1日卒業認定会議時点、3月末までには就職希望者全員が内定)は医療事務科92%、ホスピタリティ科92%、社会体育科83%であるが、専門士の資格が活きる関連分野への就職内定率は社会体育科88%、医療事務科100%、ホスピタリティ科100%である。就職希望者に関しては卒業後の4月以降も就職が決まるまで学校は支援を続けている。今後も継続して支援する。

② 今後の改善方策

入学時の学科選択が出口の就職先と接続するよう、決して修得した専門知識・スキルと関係のない安易な就職先に終わらぬよう在学中に適切な進路指導を細やかに重ねる。

③ 特記事項

卒業生の就職後の状況に関して聴き取りなどを開始した。就職後1, 2年間で早期離職した事例は見当たらないが、学校の説明責任からも本格的な調査を行う予定である。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
進路就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1

保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
高校,高等専修学校等との連携によるキャリア教育職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

① 課題

キャリアセンターの担当者の増員(4名体制)、組織・運営の改革、また各学科担任との連携を密にすることなどによる改善が定着し、キャリアセンターの機能が進路就職支援にとどまらず生徒の不安や悩みの相談対応へと拡大し、生徒が信頼を寄せている。

② 今後の改善方策

進路就職支援に関してはPDCAの management cycle を基本にして年間計画→実行→支援取り組みの評価→改善を実行し、ていねいに行き届いた指導ができています。広島YMCAのミッション「一人ひとりを大切に いのち輝く未来へ」を文字通り実行している。

③ 特記事項

定期的にスクールカウンセラーによるカウンセリングを導入しており、悩みを抱えた学生の救済を目指しているが、利用者は少なく限られている現状にある。

(6)教育環境

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
施設設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

生徒数の安定的推移並びに微増傾向に伴い教室数に余裕がなくなっている。また言語コミュニケーション科に関しては日本語教育振興協会の一教室20名以下の基準を厳格に守り、一教室15名程度で日本語教育を展開することでますます余裕を失っているが、可能な限り教室転用を行っている。専門教育を行っている3学科にはそれぞれの目的に応じた医療実習室・設備、ホテル実習室・バーカウンター、コンピュータールーム並びに温水プール・トレーニングジム・ダンススタジオ・体育館などを備えているが施設・設備・機器の更新、設備の充実などに課題を残している。

② 今後の改善方策

「専門学校設置基準」を遵守し、広島YMCA全体の中期計画の進行をみながら、施設・設備・機器等の更新、充実に努める。言語コミュニケーション科は新しく入国管理局の定めた設置基準に従い改善を進める。

③ 特記事項

設置基準で「なるべく備えるものとする」とされている図書室は存在するが面積・蔵書数など不十分、ベッドは設置されているが保健室とは言えないなど改善の余地がある。トイレに関しては洋式温水ウォシュレットへと全面改築し、生徒の不満がすべて解消し生活様式の変化に完全対応できている。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

高等学校等に最新かつ適正な学校情報を媒体、会場説明会、学校説明会、学校訪問などによって伝えることに努めている。募集専従者が限られている本校は綿密な戦略・戦術・兵站を考える必要がある。

② 今後の改善方策

広島YMCAの専門学校4校の担当で全国の情報も踏まえて推進会議を定期的に行い、募集戦略を検討する。また学校の教育内容の魅力化のため教育課程編成委員会を通して外部の知見を積極的に取り入れる。言語コミュニケーション科への留学生募集に関しては「2015日本語教育改善ビジョン」に基づき新体制・新構想で展開し成果があがりつつある。

③ 特記事項

学納金に関しては学校法人広島YMCAが利潤追求を目的としない学校であることから可能な限り低廉に抑えるべく努力をしている。同時に学校独自の各種奨学金や授業料減免制度を体力の限界まで設定し生徒・保護者の便宜を図っている。

(8) 財務

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1

① 課題

3つの学科(医療事務科、ホスピタリティ科、社会体育科)では生徒数が近年安定的に推移しているが高校生の就職率の上昇、家庭の経済力が全般的に下降など種々の要因により先行きは見通せない。残る1学科(言

語コミュニケーション科)では中国からの留学生数が2007年をピークに落ち込みを続けたが、さまざまな取り組みによってピーク時に戻りつつある。

② 今後の改善方策

現在の本校の経常収支は言語コミュニケーション科の留学生数の回復により好転しつつあるが、留学生の場合、宿舍・備品等の費用、エージェン特等に対するコミッション、学費減免、独自奨学制度などが必須であるだけに、安定経営のためにはまず定員を充足する程度の留学生の数の確保が重要である。

③ 特記事項

家庭の経済状況が年々厳しさを増し、専門学校に進学したくても進学できない生徒が増えている。このため本校はAO奨学制度、特待生学費減免制度の対象者を入学生の50%程度まで保証して対応している。

(9) 法令遵守

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
法令,専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し,その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

①課題

全国YMCA自己点検評価表に基づき自己点検を長年にわたり実施してきた。企業や関係諸団体の役員や職員による学校関係者評価は実現したが、第三者評価には至っていない。学校評価を学校運営のナビゲーションの仕組みとして活用するため改善の必要がある。

② 今後の改善方策

関係法令の遵守、生徒便覧の遵守、広島YMCA情報保護ガイドラインの周知・徹底などに努める。

③ 特記事項

学外の知見を学校運営に活かすため、2014年度に言語コミュニケーション科を除く3つの学科に教育課程編成委員会を設置した。また自己点検評価から一歩進めて学校関係者評価委員会を立ち上げ、客観的な学校評価を公開できる環境が整った。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献地域貢献を行っているか	4	③	2	1
生徒のボランティア活動を奨励,支援しているか	④	3	2	1
地域に対する公開講座教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1

① 課題

公益財団法人 広島YMCA GCC(global community center)の企画する数多くの社会貢献・地域貢献活動に本校の生徒、職員が積極的に参加している。生徒は言語コミュニケーション科の留学生も多数参加するなど生徒の意欲は高い。参加時期は長期休業中が多いため生徒の長期研修と重なることが普通で、医療事務科、ホスピタリティ科の生徒は参加しにくい面がある。結果として、学科によって参加態勢に偏りが出ている。

② 今後の改善方策

社会貢献活動は本校の教育の一つの柱としている。生徒の人間力の形成に効果が大であるので、すべての学科のできるだけ多くの生徒に参加の機会を確保する。参加費用が必要なものに関してはGCCが中心となり生徒本人の経費が一部負担で済むように配慮している。

③ 特記事項

2014年8月20日の広島市北部土砂災害においては、災害直後から現地ボランティアセンターに広島YMCA全体で9月末までで延べ70名の職員を派遣、本校は中心となる常駐者1名と授業に空きのあるスタッフを派遣した。生徒は街頭募金活動に出るなど可能な限りの活動を行った。全国のYMCAからの募金とあわせた募金から被災地の広島市立小学校2校に数百万円分の教育機器を贈呈、また広島市を通じて、被災地の住民支援に数百万円を寄付した。

(11) 国際交流(必要に応じて)

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
留学生の受入れ派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	④	3	2	1
受入れ派遣,在席管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	④	3	2	1
学内で適切な体制が整備されているか	④	3	2	1

① 課題

英国に2つの姉妹提携校、Warwickshire CollegeとPembrokeshire Collegeがある。両校はFurther Educationを行う学校であり、専門学校である本校と似通った学科・コース編成を実施している。2013年度、2014年度、2015年度と主に本校のホスピタリティ科の生徒の現地研修が行われ成果が現れている。中国にも提携校の北京科技大学、姉妹提携校の蒙古族学校(モンゴル自治区フフホト市)がある。他にも米国ハワイ州、オーストラリアタスマニア州に提携校があるが、留学を検討する生徒はいるが、まだ実現に至っていない。

② 今後の改善方策

現在は本校のホスピタリティ科のみ海外姉妹校研修を実施しているが、経費の面から希望者のみの研修となっているが、可能な限り全員参加としたい。医療事務科、社会体育科に関しても海外研修の機会を設定したい。

③ 特記事項

2015年度に本校生徒が参加した国際交流プログラムはフィリピンワークキャンプ、The 55th Let's Get Together プログラム(ハワイとの交流)である。12月に予定していたのがホスピタリティ科の海外実務研修であったが、現地の名門ホテルでの実地体験研修や生徒自身にツアーコンダクター・プランナーを実行させ、サバイバルツアーを体験させる良い機会となった。